

| | | | | | |
|-------------------|---|----------------|-----|------------|-------|
| 都道府県・ 指定都市番号 | 28 | 都道府県・ 指定都市名 | 兵庫県 | 研究課題番号・校種名 | 2 中学校 |
| | | | | 教科名 | 家庭科 |
| 研究課題 | 学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ①各内容における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活の課題を解決する力や方法、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法等の研究 ②「生活の課題と実践」に関する指導方法及び評価の研究 | | | | |
| ふりがな 学校名 (生徒数) | かわにししりつせいわだいちゅうがっこう 川西市立清和台中学校 (566名) | | | | |
| 所在地 (電話番号) | 〒666-0143 兵庫県川西市清和台 2-3-57 (Tel 079-799-3418) | | | | |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL | http://www.kawanishi-hyg.ed.jp/seiwadaijo/ | | | | |
| 研究のキーワード | 衣服の選択と手入れ 小中連携 5年間を見通した衣生活の指導計画 小集団学習 実践的な態度の育成 | | | | |
| 研究結果のポイント | ○日常着の選択や手入れに関するアンケートから実態把握ができ、指導内容が明確となったことで、指導の工夫につながった。 ○身近な既製服を教材として活用したり、「衣生活の課題と実践」を指導計画に位置付けたりしたことで、衣生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成につながった。 ○衣服の選択と手入れについて、小集団での意見交換を通して様々な視点から検討し、衣生活を工夫しようとする態度を育むことにつながった。 ○小中学校合同の研修会や公開授業の交流を行ったことで、互いの指導内容に理解を深めることができ、5年間の系統性をもった指導計画を作成できた。 | | | | |

1 研究主題等

(1) 研究主題

衣生活の課題を解決する力と実践的な態度を育むための指導の工夫

(2) 研究主題設定の理由

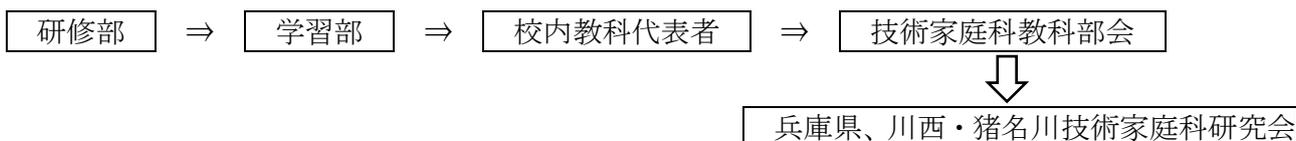
本校生徒の衣生活に対する興味・関心は高く、衣服の着用や手入れ、製作等の実習には意欲的に取り組んでいる。しかし、生徒の生活経験は少なく、小学校で学んだ基礎的・基本的な知識及び技能が十分に身に付いていないこと等から、学習したことが自分の生活に生かされていない状況が見られる。

そのため、家庭分野においては技能の定着を図る指導に重点を置くとともに、生徒自身が学ぶことに興味をもち、自分の衣生活を振り返り、課題を見付け、快適な衣生活に向けて、その解決に取り組むことができるような指導の工夫が必要である。

そこで、内容「C 衣生活・住生活の自立」の(1)「衣服の選択と手入れ」の学習において、校区の小学校と連携し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着とその活用を図るための5年間を見通した指導計画を工夫するとともに、問題解決的な学習や小集団を生かした学習を取り入れ、衣生活の課題を解決する力と、健康で快適な生活を送るための生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を育てたい。

(3) 研究体制

<校内の研究体制>



(4) 1年目の主な取組

| | | |
|----------------|--|---|
| 平成 29 年度 | ○4月 | 中学校1年生, 校区内小学校6年生の実態調査のためのアンケートの実施。 |
| | ○5月 | アンケートについて分析, 考察。小学校との授業交流, 小学校授業研究会への参加。 |
| | ○5月～6月 | 衣服の手入れの方法等, 計画実践する。 「衣服」に関する企業協力の研修会を実施する。 |
| | ○4月～8月 | 基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るために, 衣服の着用目的, 着用の仕方, 活用, 衣服の選択を関連付け, 授業形態を考える。 |
| | ○9月 | 衣生活「衣服の選択と手入れ」について授業実践を行う。 |
| | ○11月 | 授業改善のため「川西・猪名川技術家庭科研究会」において, 反省と課題について研究協議を行う。 |
| ○2月 | 授業後の成果と課題を捉えるために, 中学校1年生に事後アンケートを実施する。 | |

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①生徒の日常着の選択や手入れに関する実態調査

- ・中学校1年生136名, 校区内小学校6年生98名にアンケートを実施
- ・アンケート結果の分析と考察

②衣生活の課題を解決する力を育む指導計画の工夫

- ・小中学校の衣生活に関する指導内容の系統性を明確化
- ・小中学校5年間を見通した衣生活の指導計画の作成

③衣生活の課題を解決する力と実践的な態度を育む指導方法の工夫

- ・身近な既製服を教材として用いた, 問題解決的な学習の工夫
- ・小集団学習を取り入れた, 指導方法の工夫
- ・思考の流れを把握することができるようなワークシートの工夫

④小中学校の連携を深める取組

- ・小学校家庭科研修会への参加と小中学校家庭科教員の授業実践の交流

⑤家庭・地域との連携を深める取組

- ・専門家による衣服の選択と手入れについて研修会の実施
- ・校内学習発表会において生徒自身が実践活動をまとめ, 掲示発表

(2) 具体的な研究活動

①生徒の日常着の選択や手入れに関する実態調査

- ・地域の小学校と連携し6年生 98名と中学校1年生 136名に、洗濯に関する事柄、手入れに関する事柄、着用の仕方に関する事柄等「服に関わる自立度チェック」のアンケートを実施し、その結果を分析した。
- ・日常着の手入れに関する事項では、「ボタンを正しくつけることができる」と回答した中学生は約半数にとどまり、既習事項である技能の習得に課題が見られた。また、「ほころび直し」については、「経験がある」と回答した中学生は約半数であり、中学生は小学校に比べて制服の手入れの機会が多くあることが読み取れた。しかし経験があっても、自分自身で上手に手入れを行うことが難しいと感じている割合は高いことから、基礎的・基本的な知識及び技能は5年間を通して系統的に繰り返し指導する必要がある。また、「洗濯機での洗濯」については「したことがない」と回答した生徒や「洗剤の区別」が「わからない」と回答した生徒がともに3割いることから、家庭で実践できる場を設定するため、「衣生活の課題と実践」の課題設定に工夫が必要であるとわかった。
- ・日常着の着用に関する事項では、既制服の選択において、どのような情報をもとに判断しているかという問いに対して、「デザイン」や「価格」といった目につきやすい情報だけで判断していることが多く、判断の経験も少ない実態から、品質表示や取扱い表示等、必要な知識の習得を図るとともに、選択に必要な情報を収集・整理し、それらを活用して選択する指導の工夫が必要であることがわかった。

②衣生活の課題を解決する力を育む指導計画の工夫

- ・小学校で十分に身に付いていない「かがり縫い」「ボタン付け」「ミシン縫い」の技能を洗い出し、中学校で身に付けさせたい「まつり縫い」の技能と合わせた指導計画を工夫した。
- ・小中学校家庭科担当教員が合同で研修を実施し、5年間を見通した指導計画を作成した。

③衣生活の課題を解決する力と実践的な態度を育む指導方法の工夫

「既制服の選択」

- ・品質や取扱い等が異なる多様な種類のTシャツを教材とし、目的に合ったTシャツを選択する問題解決的な学習を取り入れた。
- ・既制服の選択について「ダイヤモンドランキング」を用いて、自らの考えをまとめた上で、小集団の中で意見交換を行った。このことで、表示の確認等、新たな視点に気づき、既制服の表示に関する学習にも意欲的に取り組むようになった。また、Tシャツ以外の既制服の選択についても学んだことを活用して考えさせたことは、実践的な態度の育成につながった。
- ・ワークシートの内容を吟味し、生徒・教師共に思考の流れが把握できるように工夫した。また、本時のねらいを明確にし、目標に対する達成状況を確認できるように工夫した。

④小中学校の連携を深める取組

- ・中学校家庭科担当教員が小学校の授業参観や研修会へ各学期に1回参加し、情報交換をする等交流を図った。さらに、実態調査への協力を要請して結果を共有し、分析結果から小

中学校の系統性を検討することで、互いの指導内容に対する共通理解を図った。

⑤家庭・地域との連携を深める取組

- ・授業内容やその様子を学校のホームページで公開し、家庭や地域に話題を提供した。「衣生活の課題と実践」では、長期休業中に実施し、家庭からのコメントを求める等、家庭との連携を深める工夫をすることとした。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- ……地域の小学校と連携し、日常着の選択と手入れに関するアンケートを実施したことにより、実態把握ができ、指導の工夫につながった。
- ……身近な既製服を教材として活用したり、「衣生活の課題と実践」を指導計画に位置付けたりしたことで、衣生活をよりよくしようとする実践的な態度を育むことにつながった。
- ……衣服の選択と手入れについて、小集団での意見交換を通して様々な視点から検討し、衣生活を工夫しようとする態度を育むことにつながった。
- ……小中学校合同の研修会や公開授業の交流を行ったことで、互いの指導内容に理解を深めることができ、5年間の系統性をもった指導計画を作成できた。
- ……衣生活に関する基礎的・基本的な知識や技能を一人一人に確実に身に付けさせるために、さらに個々の生徒の技能の習得状況の把握に努める必要がある。
- ……一人一人が情報を収集・整理したり、技能の定着につなげたりできるよう、ICTを活用した授業展開やワークシートの工夫が必要である。
- ……小中学校が連携し系統性を重視した指導計画の作成を行ったが、より授業実践の交流を行う必要がある。
- ……小学校と連携した技能についての指導方法の工夫が必要である。

4 今後の取組

- (1) アンケートの内容の改善と検討を行い、実態把握をするとともに指導の工夫に生かす。
- (2) 小中学校連携のために、学習内容を十分に把握し指導者の交流を実施する。また、小中学校の学習内容についてさらに検討・研究を行い、5年間を見通した系統性をもった指導計画を工夫する。
- (3) 小学校と連携し、個々の生徒の技能の習得状況を把握するための教材・教具の研究や授業モデルの確立を図る。
- (4) 衣生活の課題を解決する力と実践的な態度を身に付けるため、生徒がより主体的に課題を解決する授業を目指し、題材の開発を工夫する。
- (5) ICTの活用、小集団を生かした授業の展開等、生徒がより理解しやすい授業の工夫を図る。
- (6) 平成31年度全国技術・家庭科研究大会にむけ、衣生活において実践的・体験的な活動を通して、生活を工夫し創造する資質・能力の育成を目指す。